

2. 水域利用の現状

2.1 舟運

【江戸時代～昭和30年代】

江戸時代



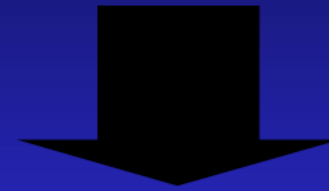
三十石船とくらわんか船

明治時代



蒸気船

江戸、明治時代は水上
交通は京都～大阪の大
動脈的存在



大正時代以降は鉄道、
道路の補完的役割へ



大阪～伏見間の貨物輸
送が昭和37年に終了

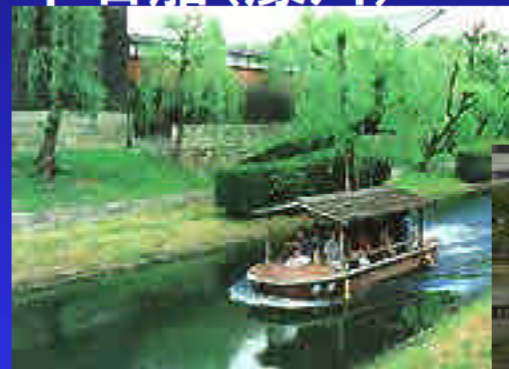
2.1 舟運 【現在】

物流・砂利採取船



浚渫船

観光・不定期、定期の旅客輸送、
水上バス、屋形船等
十石船(濠川)



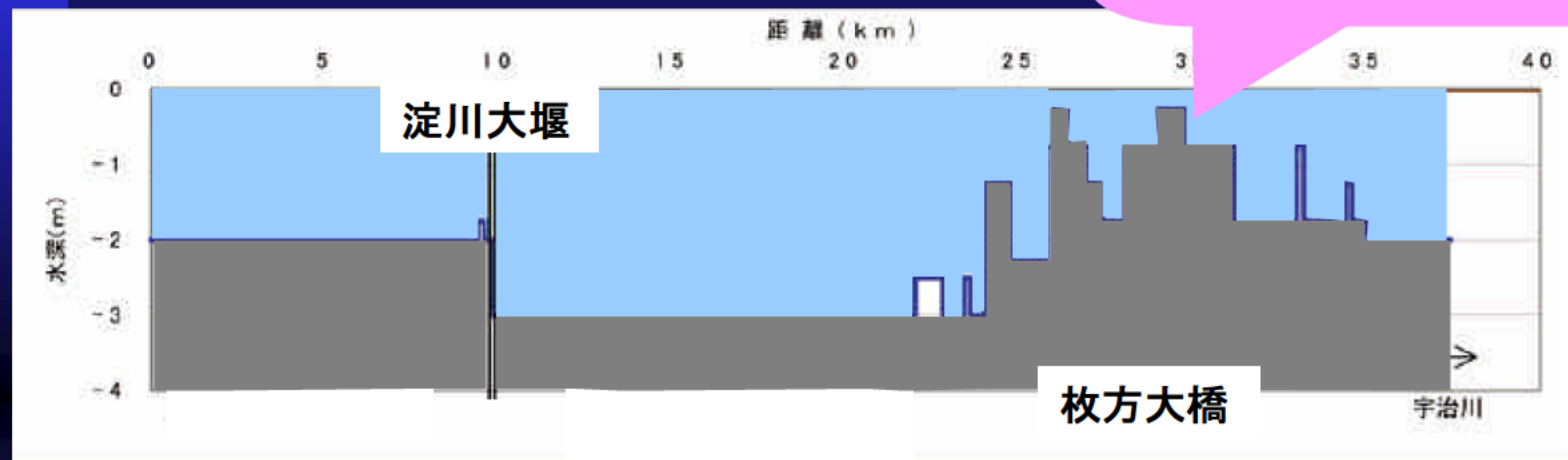
大阪水上バス

現在は地域的な舟運が行われていますが、**大川の橋桁の高さや枚方上流の水深不足等、上流から河口までの舟運の支障となる箇所もあります。**

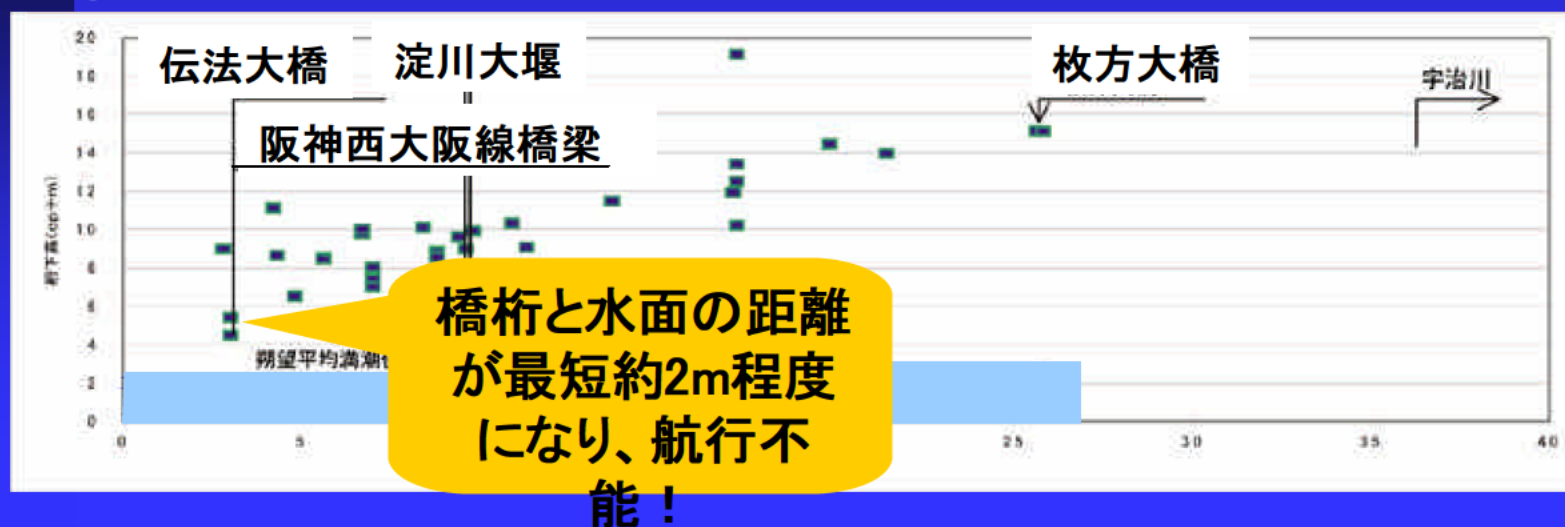
2.1 舟運

【航路水深及び橋桁の現状】

《航路水深》



《航路上の橋桁》



2.1 舟運

【船着場及び係留等について】



整備済(●) 6箇所
整備中(●) 3箇所

2.2 漁業

【淀川及び上流3川】



*直轄区間付近のみ記載